平成２６年度　政務活動費　先進都市調査報告書

会派名	市政創造
議員名	我妻静夫･岡田健一･山川明･山中正尚･古澤孝市･徳中嗣史･早川昇三
調査実施年月日	平成26年10月15日（水）
調査先　自治体名等	鹿児島県　南九州市　知覧特攻平和会館
調査項目	１．平和学習について
調査目的	1．知覧特攻平和祈念館　平和学習の取り組みについて
報告内容 実施したこと	1　視察先（市町村）の概要 人口 ： 39,065 人（H22.10.1現在）　　行政面積 ： 357.85 k㎡ 2　視察内容 ⑴ 平和学習について ① 知覧特攻平和会館の視察
感想（まとめ） 本市へ生かせること等	1．平和学習について（知覧特攻平和会館の視察） ①知覧特攻平和会館建設に至った経緯や館の目的等について 南九州市では、大東亜戦争末期(戦後は太平洋戦争)特攻作戦という人類史上類のない体験を根底に、全人類的視野に立って平和思想の普及を図るとともに、特攻隊員の遺品や関係資料等を収集･保存･展示し、その記録を後世に残し、世界恒久の平和に寄与することを目的としております。 ②建設の経緯について 昭和４０年代に、少飛会･特操会など特攻関係者から「特攻銅像の建設」と「遺品館」建設の声が続出し、全国の特攻関係者や一般有志の方々に募金を呼びかけて浄財よる建設を計画。広く募金活動を展開しましたが、第1次オイルショックにより計画が頓挫しましたが昭和４９年に運動公園の休憩施設として過疎債を利用して「特攻遺品館」を建設したのが始まりです。 その後、全国各地から訪れる人が多くなり、往時の痛ましくも悲しい事実に大きな反響が寄せられ、展示資料も多くなり、昭和６１年に特別対策事業で場所を移転して建設、名称も知覧特別平和会館改称して昭和６２年に落成しました。鉄筋コンクリート平屋建　1，607．55㎡　3，002万8千円。その後平成元年、平成3年、平成9年、平成１７年、平成２１年に増築、別館、収蔵庫を建設して現在の延べ面積は3，193．68㎡となっております。 ③資料の収集･保存活動 収集、保存、展示に努め、特攻の史実を後世に正しく伝える。遺族が世代交代しつつあり、資料の散逸･滅失が予想されるので積極的に収集している。 ④教育･普及活動 戦争を知らない世代の平和を考える学習の場として、教育旅行･修学旅行等の誘致を図り、健全で正しい平和学習の推進を図っている。語り部6名が、教育旅行･修学旅行･一般団体等に、特攻の事実･戦争の悲惨さ･平和のありがたさ･命の尊さ･家族の絆等について、説明･案内をしている。 2．感想 知覧特攻平和会館は、明治以降の日本史の真実を明らかにし、日本がどのような歴史をたどったのか、そして特攻に至った歴史背景を判り易く解説された会館です。入館者の反応について、戦争体験のある方々の多くが、「ここに来てよかった。時間が足りなかった。また来る。」「彼らの死を無駄にしないためにも、この事実をもっと多くの方に知ってほしい。」「当時のことを思えば涙なくして見学ができない。今の若者にもっと知っていただき、戦争･平和･命について考えてほしい。」と寄せ書き帳に残されていました。本市も戦没者ならびに艦砲射撃殉難者追悼式が行われておりますが、今後も式典を継続して後世に伝えていくことが大切と思いました。